

SDG S

Report 2024

2024.01-2024.12



藤久運輸倉庫株式会社

藤久運輸倉庫株式会社

SDG s レポート

藤久運輸倉庫とSDG s

私たちはCSRを「お客さまや社会から支持され、環境や社会と共存する企業として、企業が不祥事を起こさないようにすると共に、企業を取り巻く利害関係者に積極的に貢献していく社会的責任」と定義し、以下4つの責任を果たすべく活動を行ってきました。

法的責任

経済的責任

倫理的責任

社会貢献的責任

2015年に国連によりSDG s 宣言が採択され、藤久運輸倉庫ではSDG s の達成に貢献することが社会からの期待と捉え、CSRの取組みを拡大させるべく2020年10月に「SDG s 宣言」を行い、持続可能な社会の実現に貢献することといたしました。SDG s の各目標を経営課題目標に盛り込み、社員ひとりひとりがこの課題に取り組んで参ります。



目次

CSR基本方針	3
安全	4-8
環境	9-10
社会貢献活動	11-12
B C P 対策	13-14

CSR基本方針

私たちは、法令およびその精神を遵守し、オープンでフェアな企業活動を通じて、社会から信頼され、愛され、尊敬される企業を目指し、次のとおり全てのステークホルダー（お客様、地域社会、取引先、従業員など）を重視した事業活動をおこない、社会・地域の調和のとれた持続可能な発展に貢献します。

お客様

私たちは「お客様第一」という信念に基づき、お客様が安全・安心を得られるために、且つお客様のさまざまな期待に応えるために、お客様に真にご満足いただける優れたサービスの開発と提供に努めます。

私たちは道路交通法、道路運送法、貨物自動車運送事業法など関連法令およびその精神を遵守し、お客様に信頼される営業活動を推進します。

私たちは個人情報保護およびその精神を遵守し、お客様の個人情報保護の徹底に努めます。

地域社会

私たちは事業活動を通じて環境保全に努め、地球環境・地域社会との調和ある成長を目指します。

私たちは社会・経済の要請に応え、法令を守り「人間性尊重」の経営を実践します。

私たちは豊かな地域社会づくりを目指し、社会貢献活動を積極的に推進します。

私たちは交通安全対策へ積極的に取り組みます。

取引先

私たちは取引先を尊重し、長期的な視野に立ち、相互信頼に基づく共存共栄の実現に取り組みます。

私たちは独占禁止法、下請法をはじめとする関連法令およびその精神を遵守し、公平かつ自由な取引をおこないます。

従業員

私たちは労働関連法令の遵守はもとより、従業員が生き生きと働けるように、相互信頼・相互責任の精神に則り、お互いを思いやり、それぞれの考え方や立場を尊重します。

私たちは従業員が誠実に仕事に取り組み、チャレンジ精神を大切に、新しい価値の創造を目指すことができるよう個々の自己啓発・成長を支援します。

私たちは安全で健康的な職場づくりに努めます。

私たちは機密情報を厳重に取り扱うと共に、適時適確な情報開示に努めます。

安全



安全理念に則り、お客様、地域社会、従業員へ安全・安心を提供してまいります

ISO39001認証

藤久運輸倉庫株式会社 中部事業部 運輸部では2015年7月10日から、道路交通安全マネジメントシステムの国際規格「ISO39001」の認証(登録証番号: JQA-RT0050、登録活動範囲: 一般貨物の輸送サービス)を取得しています。

当社では、事故防止研修会の実施、ヒヤリハット情報収集・活用、交通事故予防システムの運用など、交通事故撲滅に向け日々取り組んでおります。



安全教育

安全教育のため、全体研修会のほか定期的な啓蒙活動を行っています。

事故防止研修会 4月20日実施 (中部トラック総合研修センター)
交通安全研修会 10月19日実施 (あいち健康プラザ プラザホール)

トラックセーフティラリーへの参加、立哨 毎月1回実施

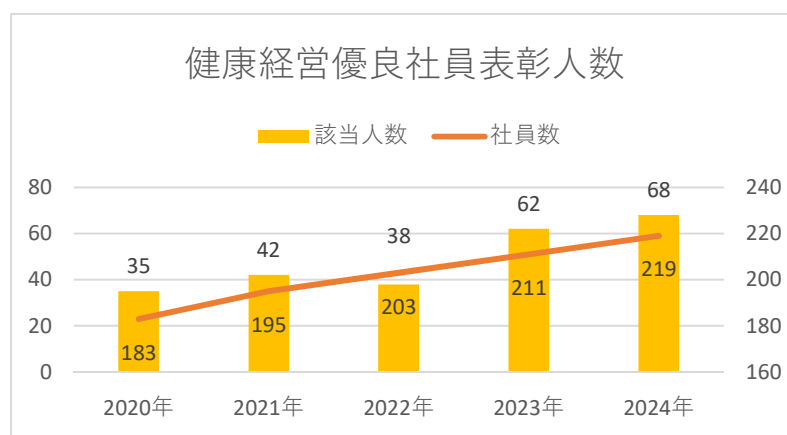


健康経営優良法人認証取得

健康経営優良法人認定制度とは優良な健康経営にとり組む企業を「見える化」し

「社員の健康管理を経営的な視点で考え、戦略的に取り組んでいる企業」として顕彰する制度です。

認証取得継続を目標とし、健康経営を全社員で推進するため、2020年に「健康経営優良社員表彰規定」を新設し、目標達成社員を表彰して健康経営の実践に努めています。



「ホワイト物流」推進運動への参画

当社は、「ホワイト物流」推進運動の趣旨に賛同し、以下のように取り組むことを宣言しています。

No.	分類番号	取組項目
1	A ①	物流の改善提案と協力
2	A ③	パレット等の活用
3	A ⑯	検品水準の適正化
4	B ①	運送契約の書面化の推進
5	C ②	働き方改革等に取り組む物流事業者の積極的活用
6	D ①	荷役作業時の安全対策

※「ホワイト物流」推進運動ポータルサイト <https://white-logistics-movement.jp/>



健康起因事故未然防止

健康起因事故の未然防止のため、以下の取り組みを実施しています。

定期健康診断

睡眠時無呼吸症候群(SAS)健診

脳ドック健診

心臓ドック健診

血圧測定

活動量計

ストレスチェック

春『けんぽれん健康ウォーク』

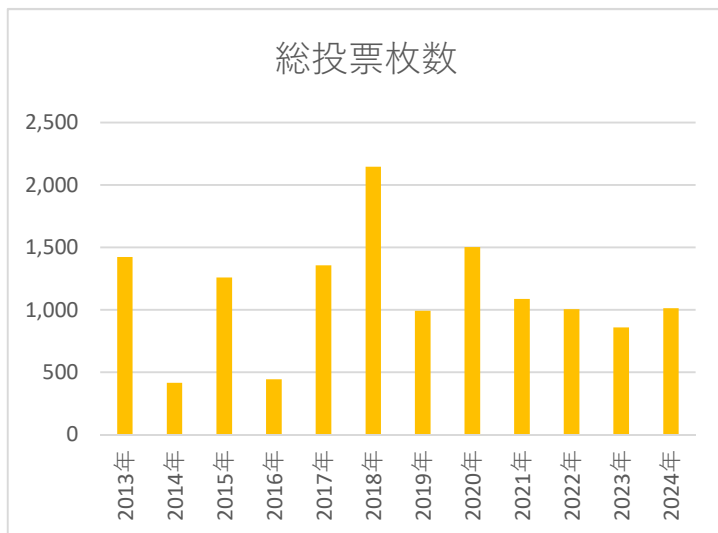
秋『みんなで歩こうキャンペーン』



※春にはけんぽれん主催の『健康ウォーク』に参加し、秋には全社員対象に配布したウェアラブル端末を利用した増健活動を行いました

社員幸福度の追求

2013年より毎月10日を「藤久感謝の日」として身近な方へ感謝を伝える日と制定し、感謝を伝えたい人へカードを贈るサンクスカード制度を実施しています。
年間を通して一番投票した人、得票した人を年末の納会にて表彰しています。



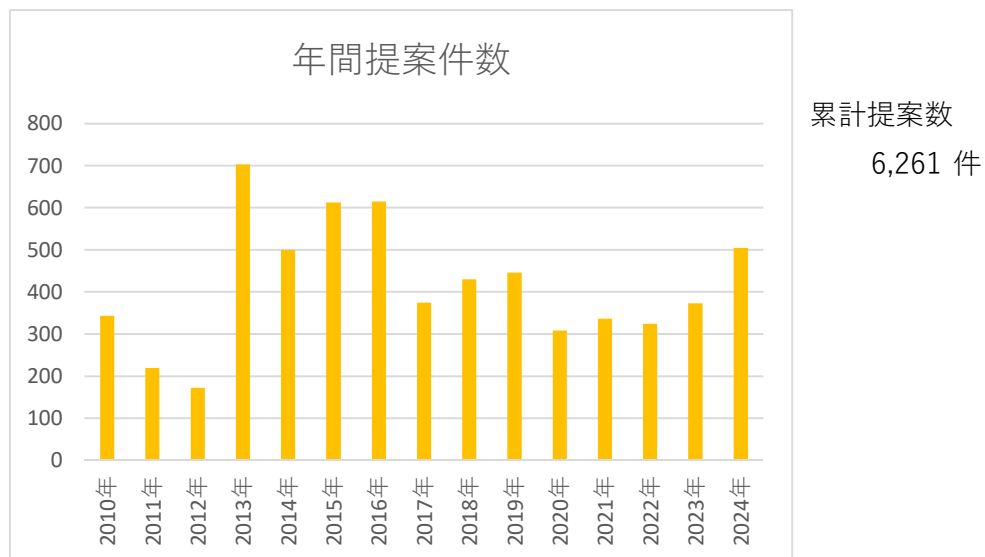
累計投票数
13,500 枚



改善提案制度

業務を行う中で感じた改善点を提案する制度として、改善提案制度を設けています。
小さな改善から原価低減効果のある提案、経営提言まで、年間を通して多くの
提案が寄せられます。

定期的に内容を精査し、効果の高い提案を行って頂いた方や多くの提案を
して頂いた方は年末の納会にて表彰しています。



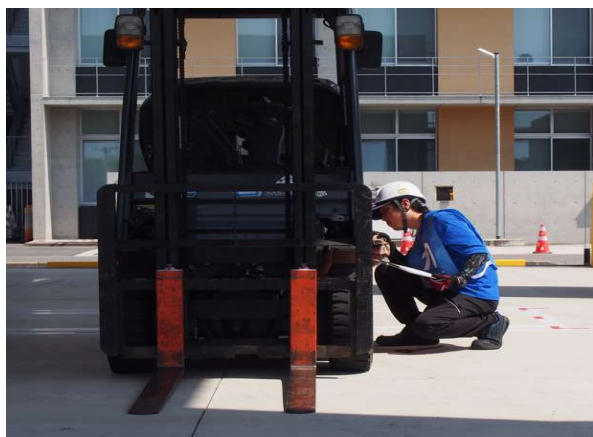
優良乗務員・セーフティーラリー表彰

全社員を対象として、継続して無事故無違反であった社員を納会にて表彰しています。
2024年は10年表彰が3名、5年表彰が14名で合計17名が表彰されました。

フォークリフト運転技能競技会

自動車の運転技能向上の一環として、愛知県トラック協会 西三支部刈谷部会主催の
「自動車運転技能競技会」に参加しています。

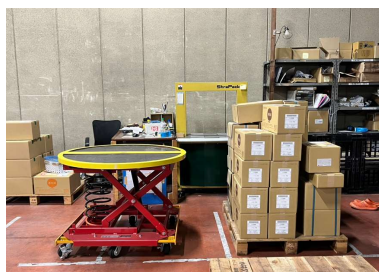
2024年は6月8日に行われ、当社から3名が参加し、法令知識等を問う学科、車両点検技術、
運転技能の3項目で他社の参加者と競い、運転技能を高めました。



身体にやさしい設備の導入

腰痛予防対策として、荷物の荷重でパレットが上下する「パレットレベラー」を導入しました。

これにより、作業する社員は腰を曲げる動作が減り、腰の負荷軽減に繋がりました。



事務員・倉庫作業員へのeラーニングの導入

安全教育の一環としてドライバーへは毎年eラーニングを導入し毎月学習するように努めていますが、新たに事務員・倉庫作業員へもeラーニングを導入し、品質向上や是正・予防処置を学習し、安全意識の向上を図っています。

暑気手当の支給

夏の熱中症予防対策として、飲料水や健康管理のための費用として「暑気手当」を全社員に支給しました。現場業務従事者は10,000円/月、事務職員へは5,000円/月をそれぞれ7月・8月の2か月間支給しました。

AED（自動体外式除細動器）の設置

小垣江物流センターにもAEDを導入しました。

2024年には倉庫も増築をし、所属社員数も50名（派遣社員含む）になりました。

これで各物流センターや営業所にはAEDの設置が完了し、万が一の際にも迅速に救命措置を行うことが可能です。



環境



地球環境保全の重要性を認識し、企業活動のあらゆる面で環境との調和を図り、豊かで住みやすい社会の構築に取り組んでまいります

ISO14001認証

環境目的に対する目標と結果

①省エネルギーの推進 電気使用量の削減

目標： 34,035 k Wh/年

結果： 34,464 k Wh/年 達成率： 99%

②天然資源の有効活用 コピー用紙使用量の削減

目標： 20,876 枚/年

結果： 24,360 枚/年 達成率： 86%

③廃棄物の削減 焼却・埋立廃棄物の削減

目標： 103.62 k g /年

結果： 98.27 k g /年 達成率： 105%

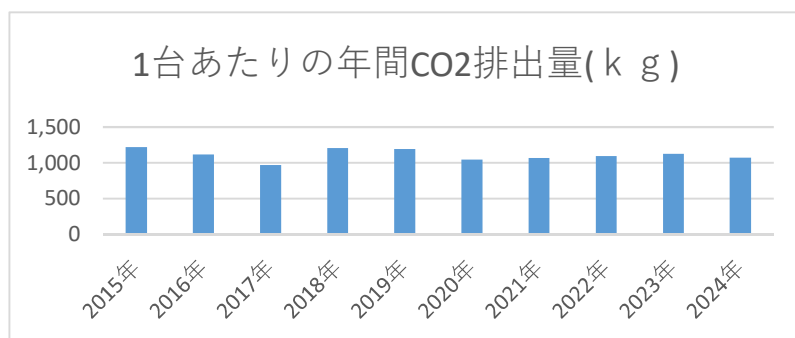
④環境に配慮した取組・活動 環境美化活動

目標： 地域清掃活動の実施/月1回

結果： 達成 達成率： 100%

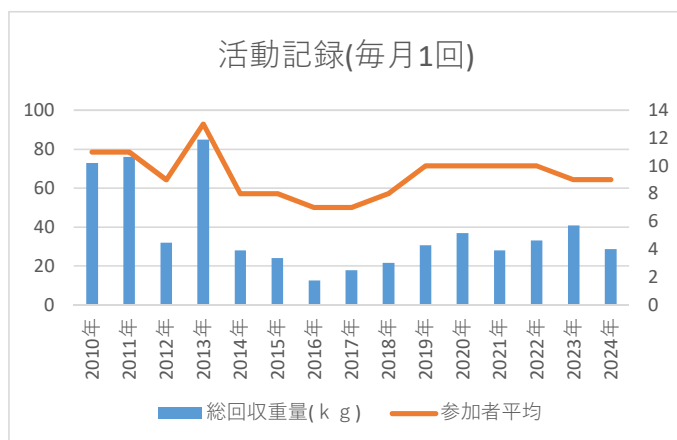
エコドライブの推奨

Fun to shareの取り組みに賛同し、マイカー、社用車のエコドライブを推進し、環境保護に取り組んでいます。



地域清掃活動

月に一度、会社の周りの清掃活動を行い、環境保護、資源リサイクル活動に協力しています。



累計回収量

568 kg



SBTイニシアチブ認定

当社の設定した温室効果ガスの削減目標が、国際的なイニシアチブである「SBT※イニシアチブ」により科学的根拠に基づいた目標として認定されました。

掲げた目標は以下の通りです。

※Science Based Targets

- スコープ1およびスコープ2について、2018年度を基準に2030年までに50%に削減する。
- スコープ3について、排出量を測定し削減することを約束する。

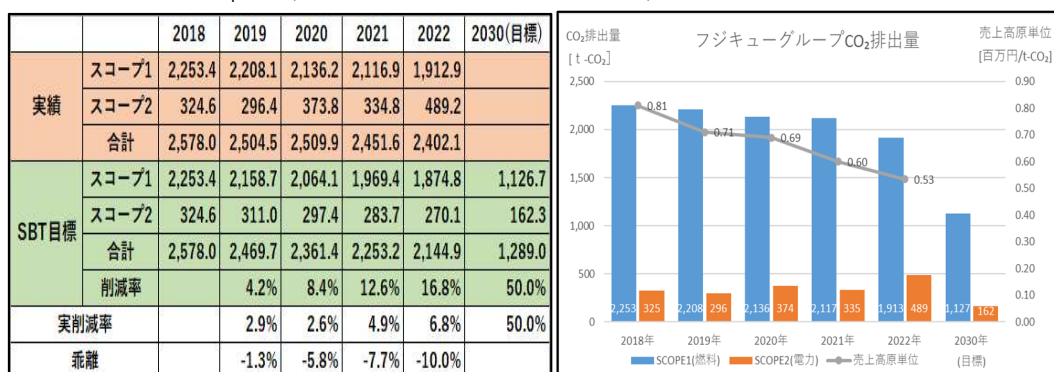


2022年度のCO₂排出量の算出を行いましたので実績を報告いたします。

◆2022年度 CO₂排出量：2,451.6t-CO₂

内訳

- Scope1（直接的温室効果ガスの排出） 1,912.9t- CO₂
- Scope2（電力、熱、蒸気の導入時の排出） 489.2t- CO₂



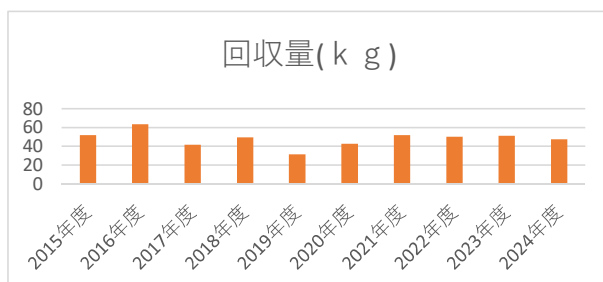
社会貢献活動



法的責任、経済的責任、倫理的責任を重視し、社会貢献活動に取り組んでまいります

ペットボトルキャップの回収

回収したキャップをリサイクル業者へ持ち込むとリサイクル代金がNPO団体へ寄付され、UNICEFと連携し支援を必要とする国や地域へワクチンが届けられる活動を継続しています。



累計回収量
482 k g

累計個数概算
207,131 個

社内・家庭におけるアルミ缶の回収、売却代金の寄付

回収したアルミ缶をリサイクル業者へ持ち込み売却し、資源のリサイクルにも貢献しています。売却代金は刈谷市社会福祉協議会へ寄付しています。



累計回収量
2,399 k g

累計寄付金額
161,440 円

社内自動販売機売上の一部を寄付

自販機売上の一部はベンダーを通じて刈谷市社会福祉協議会、交通遺児育英会、緑の募金へ寄付しています。

2024年総寄付金額 221,975 円

ランドセル・クレヨンの寄付

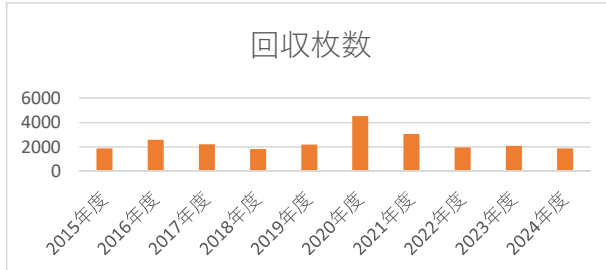
社員の家庭で不要になったランドセルやクレヨン、ハーモニカなどを回収し、『子ども食堂ほっとライス』に寄付しています。

2024年寄付数	ランドセル	13 個
	クレヨン	1 個
	ハーモニカ	1 個

古切手の回収



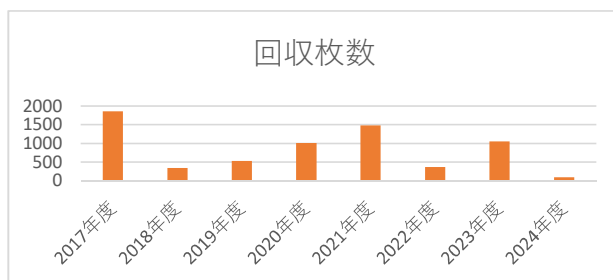
使用済古切手を回収、公益社団法人を通じて愛好家へ売却、支援を必要とする国や地域で役立てられています。



累計回収枚数
24,197 枚

ベルマークの回収

2022年から従来のベルマーク回収に加えて、ウェブベルマーク支援にも取り組んでおり、支援金がウェブベルマーク協会からベルマーク教育助成財団を通じて、被災校をはじめ、全国の学校支援に活用されています。



累計回収枚数
6,711 枚

累計点数
8,239 点

ウェブベルマーク累計点数
39,558 点

献血の推奨

身近にできる社会貢献活動として献血を推奨しており、献血を実施した社員は会社に報告して頂いています。

2024年献血実施人数 21 人

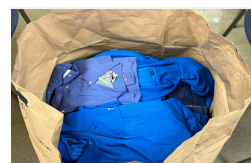
社会貢献活動

昨年に引き続き、10月8日「木材の日」に刈谷市のフローラルガーデンよさみへ愛知県の間伐材を利用した「テーブル」1基と「ベンチ」2基を寄贈しました。環境保全・まちづくりにつながる地域貢献活動を継続し、2025年度以降も刈谷市内の公園へ木製ベンチ・テーブルを寄贈する予定です。



その他活動

2024年に制服をリニューアルしたことにより、社員の着なくなった旧制服を中心に古着の有効利用策として「古着deワクチン」に取り組み、古着とワクチンを同時に寄付しました。また、社員の家庭にある古着も募り、幅広く衣類の再利用を行いました。



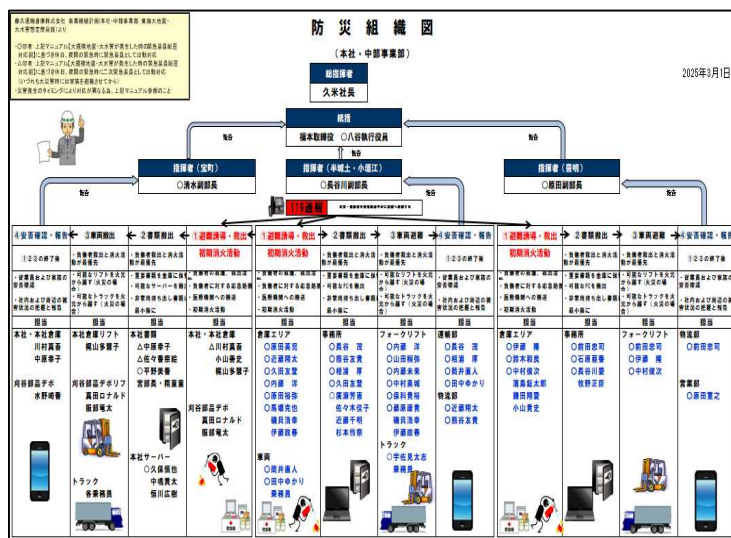
BCP対策



事業継続活動体制維持に向け、自然災害を含むあらゆる脅威への対策に取り組んでまいります

災害時対応マニュアルの整備

BCPマニュアルを作成し、定期的にも内容の見直しを行っています。



構成	BCP本文	BCPサブシート
1. 基本方針	1-1. BCPの基本方針	
2. BCP体制	2-1. 対策本部の組織と役割・担当	
3. 緊急連絡体制	3-1. 従業員連絡リスト	3-1 従業員連絡リスト
4. 初期対応	4-1. BCP発動宣言	
5. 重要業務の継続対応	5-1. 重要業務と目標復旧時間	
6. 緊急救援物資輸送	6-1. 被災地内における緊急救援物資輸送	
7. 復旧の記録	7-1. 復旧記録シート	
8. 運用管理規定	8-1. 配布と回収及び取扱いの注意事項	
9. 教育訓練	9-1. 教育訓練	
10. 現状の点検と内容の見直し	10-1. 現状の点検と内容の見直し	
11. 機内カード	11-1. 機内カード	

防災訓練の実施

毎年消防設備点検に合わせて火災・地震を想定した防災訓練を実施しています。2024年は地震時の避難訓練と災害時備蓄品の使用訓練として、避難時の導線確認とEV車からの電力供給を、実際に稼働させて使用方法を確認しました。また、小垣江物流センターと刈谷物流センターでは現状の在籍社員数に併せて、災害用備蓄品の数量を見直し、保管するための物置を購入し社員に周知しました。

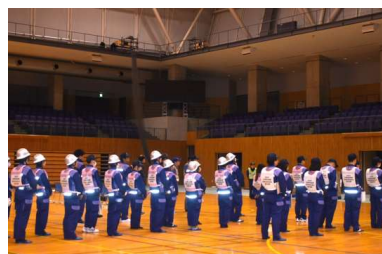
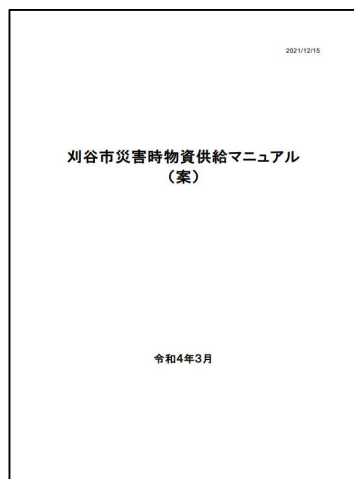


取引先とのBCP

災害時や異常事態時の生産復旧に対応できるよう、取引先とのBCPの協力体制を構築しています。

市町村とも連携し災害時に各拠点へ物資の輸送を行う体制を整えています。

2023年には、刈谷市の大規模地震発生時の物資の受入、出荷準備、搬出を想定した訓練を当社と協同で行いました。



非常時用電源の確保

本社・刈谷物流センター・刈谷中継地倉庫では太陽光発電システムを導入しており、災害時電源供給システムがあります。加えて、2024年には小垣江物流センターにも太陽光発電システムを導入しました。また、サーバーや通信機器が多く設置してある場所には蓄電池を備え、さらにはEV車を導入して災害時にはそれらを利用した電力調達を可能としています。

併せて、「点検なび」を併用する事で災害時にはフォークリフトのバッテリーを給電拠点として、地域住民の方への電力提供（電源ドナー）も可能として整備しました。

